

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

H30年6月27日

都道府県知事
(市長)

殿

〒873-0201 大分県国東市安岐町吉松2609番地



提出者 (有)河野牧場

住所 代表取締役 河野 一

氏名 TEL0978-67-3061 FAX0978-67-2902

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	(有)河野牧場
事業場の所在地	〒873-0201 大分県国東市安岐町吉松2609番地
計画期間	H30年4月1日 ~ H31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	畜産
②事業の規模	牛 1,000頭
③従業員数	8人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	動物の糞尿 ① 自ら堆肥化 ② 処理し、再利用 動物の死体 ① 処理業者へ委託処理

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
代表 (廃棄物統括責任者)			
合 計			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度 (H29 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	動物の死体
	排 出 量	8240 t	2 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	動物の死体
	排 出 量	8240 t	2 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	8240 t	t
	(これまでに実施した取組) 堆肥化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	8240 t	t
	(今後実施する予定の取組) 堆肥化		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の死体	
	全処理委託量	2 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の死体	
	全処理委託量	2 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書の記入要領

項目	説明
提出者について	産業廃棄物処理計画書の提出者は、多量排出事業者が法人の場合は法人の代表者です。ただし、処理計画書の作成単位である支店等の代表者で提出することもできます。
提出者の住所	提出者の住所を府県名から記載してください。個人事業者の場合も考え方は同様です。
提出者の氏名	個人の場合は個人の氏名を記入してください。屋号がある場合には屋号も記載してください。法人の場合は法人名、支店等の名称、代表者の氏名を記入してください。（代表者印、会社印等の押印はしないでください。）
提出者の電話番号	上記提出者の電話番号を記入してください。
事業場の名称 (行政庁管轄内事業場)	事業場の名称を記入してください。
事業場の所在地	上記事業場の所在地を記入してください。
計画期間	処理計画の計画期間を記入してください。
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	日本標準産業分類の「大分類Aー農業、林業」に該当する中分類コード及び事業区分（01 農業）を選択し、記入してください。
②事業の規模	飼育頭数を記入してください。
③従業員数	事業場の従業員数を記入してください。
④産業廃棄物の一連の処理の工程	当該事業場において生ずる産業廃棄物について発生から最終処分が終了するまでの一連の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む）を記入してください。書ききれない場合は、別紙を添付してください。
産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
管理体制図	管理体制図には役職名と産業廃棄物処理に係る役割を記載してください。既存資料を添付することも可能ですが、個人情報に該当する内容（社員の個人名等）については、削除してください。書ききれない場合は、別紙を添付してください。
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
産業廃棄物の種類・排出量	産業廃棄物の種類ごとの排出量（トン単位）の「①現状（前年度実績）」と「②計画」を記入してください。 （※産業廃棄物の種類が3種類以上ある場合は、右側のセルに続けて入力してください。以下、第2面～第5面については同様です。）
実施した（実施予定の）取組について	取組み内容及び対象となる産業廃棄物の種類を記載するなど、記入例を参考に、具体的に記載してください。
産業廃棄物の分別に関する事項	
	分別に関する産業廃棄物の種類及び取組みについて、「①現状」と「②計画」を記載してください。

項目	説明
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	
	自ら行う産業廃棄物の再生利用について、産業廃棄物の種類ごとに、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	
	産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	
	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分について、産業廃棄物の種類ごとに、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	
	産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（法施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（法第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
その他留意事項	
別紙の添付について	それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
個人情報の記載について	処理計画書は、公表制度（公衆への縦覧（H23.10.1からはインターネットによる公表））の対象となるため、代表社印、社員の個人名等、個人情報に該当する内容については、記載しないようにしてください。

(第1面)

記載例

産業廃棄物処理計画書

平成30年 ○月○○日

大分県知事 殿

代表者印、社印
等の押印は不要

提出者

住所 **大分県○○市○○町○丁目○番○号**

氏名 **○○牧場株式会社**

代表取締役 大分 太郎

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 **○○-○○○○-○○○○**

記載例は、以下の場合で示します。

- ・肉用牛農家
- ・ふん尿は自らたい肥化
- ・死体は化製場へ処理を委託

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	○○牧場
事業場の所在地	□□市□□町□□丁目□番□号 <small>計画書を提出する年度を記入</small>
計画期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	01 農業 <small>飼育頭数を記入</small>
②事業の規模	肉用牛190頭
③従業員数	5人 <small>廃棄物の発生から最終処分までの一連の処理工程（処理を委託する場合は、委託内容を含む。）を記入すること。</small>
④産業廃棄物の一連の処理の工程	動物のふん尿 ①自ら堆肥化 ②処理業者に委託して、堆肥として再資源化 ③利用組合へ委託して堆肥化 etc 動物の死体 ①化製場へ委託処理 ②処理業者へ委託処理 etc

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

場長(廃棄物統括責任者)

廃棄物処理方針の決定

廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認

事務員(廃棄物実務担当者)

廃棄物処理計画の作成

委託契約の締結事務

産業廃棄物管理票の交付・管理

行政等への各種報告

役職名と産業廃棄物処理に係る役割を記載する。既存資料の添付可(ただし、個人名は削除してください)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

昨年度の平均頭数から計算したふん尿量

① 現状	【前年度(平成29年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	動物の死体
	排出量	1,843 t	2 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		

排出抑制のために実施している取組があれば記載すること。

② 画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	動物の死体
	排出量	1,843 t	2 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		

今年度の平均予想頭数から計算したふん尿量。頭数に大きな変動が無ければ現状と同じ。

産業廃棄物の分別に関する事項

豚飼養の場合等でふんと尿を分別して処理していれば記載すること。

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 該当なし
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 該当なし

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		実施状況報告書の第2面 フロー図の②+⑧	
① 現状	【前年度(平成29年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	1,240 t	
	(これまでに実施した取組) ・堆肥化		自ら実施している再生利用に関する取組を記載すること。
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	1,240 t	
	(今後実施する予定の取組) ・堆肥化		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		実施状況報告書の第2面 フロー図の⑦	
① 現状	【前年度(平成29年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	603 t	
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	603 t	
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
① 状	【前年度（平成29年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	
	(これまでに実施した取組) ・該当なし	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	
	(今後実施する予定の取組) ・該当なし	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
① 状	【前年度（平成29年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿
	全処理委託量	動物の死体 2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	
	再生利用業者への処理委託量	
	堆肥化する場合は再生利用業者への処理委託量にその量を記入すること	
	熱回収を行う業者への処理委託量	
(これまでに実施した取組) ・動物のふん尿は再生利用業者へ全て処理委託し堆肥化している ・動物の死体は化製場に委託し処理している		

化製場に委託した場合、全処理委託量に記載すること。
実施状況報告書の第2面フロー図の⑩

3種類以上ある場合は、右側のセルに続けて入力してください。

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物のふん尿	動物の死体
	全処理委託量		2+
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
	(今後実施する予定の取組) ・処理を委託する場合は今後も再生利用業者へ委託する ・動物の死体は化製場に委託し処理している		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

ふん尿発生量の計算方法

(「家畜排泄物の発生量等に関する記録」の標準発生量値を使用)

たい肥生産量の計算方法

(財団法人畜産環境整備機構発行「家畜ふん尿処理施設的设计・審査技術」より)

乳用牛

ふん尿発生量合計 = 搾乳牛頭数 × ① + 乾・未経産牛頭数 × ② + 育成牛頭数 × ③

種類	1頭当たり排せつ物発生量(ㄲ/年/頭)	
	ふん	尿
搾乳牛	16.6	4.9
乾・未経産牛	10.8	2.2
育成牛	6.5	2.4

たい肥舎方式

ふん尿の水分含量: 85%
 生産たい肥の水分量: 66.55%
 副資材: オガクズ
 → ふん尿量の減少割合: 82.7%

肉用牛

ふん尿発生量合計 = 2歳未満頭数 × ① + 2歳以上頭数 × ② + 乳用種頭数 × ③

種類	1頭当たり排せつ物発生量(ㄲ/年/頭)	
	ふん	尿
2歳未満	6.5	2.4
2歳以上	7.3	2.4
乳用種	6.6	2.6

たい肥舎方式

ふん尿の水分含量: 81%
 生産たい肥の水分量: 63.86%
 副資材: オガクズ
 → ふん尿量の減少割合: 67.3%

豚

ふん尿発生量合計 = 肥育豚頭数 × ① + 繁殖豚頭数 × ②

種類	1頭当たり排せつ物発生量(ㄲ/年/頭)	
	ふん	尿
肥育豚	0.77	1.39
繁殖豚	1.2	2.56

固液分離・たい肥舎方式・尿は汚水処理のため計算に含まない

ふんの水分含量: 75%
 生産たい肥の水分量: 39.3%
 副資材: オガクズ
 → ふん尿量の減少割合: 63.8%

採卵鶏

ふん発生量合計 = 6ヶ月齢羽数(千羽) × ① + 6ヶ月齢以上羽数(千羽) × ②

種類	千羽当たり排せつ物発生量(ㄲ/年/千)	
	ふん	尿
6ヶ月齢未満	21.5	...
6ヶ月齢以上	49.6	...

たい肥舎方式

ふん尿の水分含量: 75%
 生産たい肥の水分量: 39.3%
 副資材: オガクズ
 → ふん尿量の減少割合: 63.5%

肉用鶏

ふん発生量合計 = 羽数(千羽) × ①

種類	千羽当たり排せつ物発生量(ㄲ/年/千)	
	ふん	尿
ブロイラー	47.5	...

たい肥舎方式

ふん尿の水分含量: 35%
 生産たい肥の水分量: 35.8%
 副資材: オガクズ
 → ふん尿量の減少割合: 80.9%

